



掛川宿 日坂宿より1里29町

本陣2、脇本陣0、問屋1、旅籠33。町並み東西8町。山之内一豊時代城下の町造りが行われ城下町、宿場町、又宿西から秋葉山へ、詣でにぎわった宿である。飯盛女がいなかった宿であった。名産葛布は鎌倉時代からの伝統的手織物。江戸時代は袴、袴に。現代は帯や、座布団布に利用。欧米に壁紙として輸出されている。

掛川城址

最初は応永から延徳年間(1394-1492)の間守護斯波氏の支配下で家臣鶴見氏3代が砦を築いていた。明応5年(1496)掛川城は今川氏親の遠江侵攻で家老朝比奈備中守泰熙が築城。永禄11年(1568)、信玄に駿府城を追われた今川氏真は掛川城主朝比奈野洲泰朝に身を寄せるが、遠江に侵攻してきた家康に攻められ永禄12年(1569)開城し小田原の北条の元へ。この時南の小笠原山から石火矢を撃とうとしたが霧で覆い隠されたので雲霧城ともいう。開城後家康の家臣、石川家成・康通父子が城主となるが、天正18年の家康の関東移封で秀吉の家臣山内一豊が入城、在城10年間、本格的に城と町造りをする。本丸、二の丸、中の丸、中の丸、竹の丸、山下廊を加えた。関ヶ原合戦後山内一豊は高知に移封され以後徳川譜代が城主、11家26代の居城として栄えた。

御殿

儀式、公式な対面、藩の公式典、藩主公邸)、藩の政務などの機能を持った施設。江戸時代の建物で現存する数少ない城郭御殿の一つ。



日坂宿本陣跡



日坂宿 金谷宿より1里24町

本陣1、脇本陣1、問屋1。町並み東西6町30間。東海道難所の一つ中山峠の西に位置し、西坂、入坂、新坂とも書かれた。鎌倉時代の記録に宿名出ている。伝馬制度の発足と同時に問屋がおかれ助郷43ヶ村の協力を得ていた。本陣:扇屋代々片岡家が世襲(旧日坂小学校跡) 藤文:商家 伊藤文七宅、(1860-7まで問屋) 萬屋:庶民の中規模の旅籠、安政(1854-60)年間建築。川坂屋:武士階級が泊まる大旅籠(土日無料拝観) 精巧な木組と細かな格子が特徴。裏に掛川城主大田侯より拝領した茶室が復元されている。



大日本報徳社

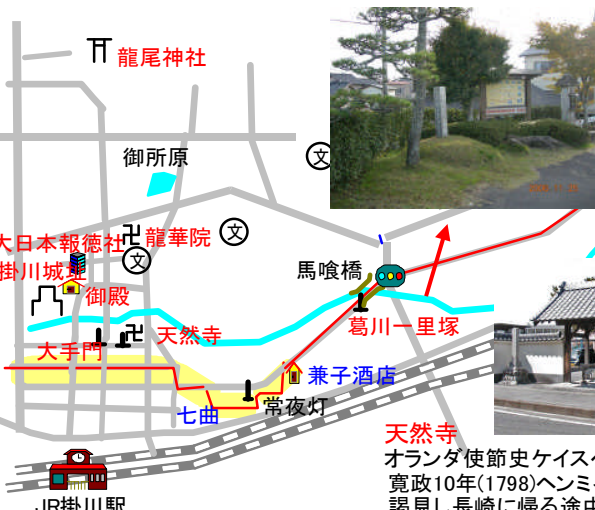
二宮金次郎の教え「道徳と経済の調和実行」を实践、全国に広める報徳運動の本社。明治11年全国各地の報徳社を合して掛川に大日本報徳社が結成された。初代社長は幼少の頃二宮尊徳から直接指導を受けたと言いう岡田良一郎が就任。日本建築に洋風を取り入れた大講堂。宮内庁から譲り受けた仰徳館(寮)など。



小夜(佐夜)の中山峠名物、子育て鈴

箱根、鈴鹿と共に東海道3大難所の一つ。多くの歌集、句集、紀行文にとりげられきた。和歌は勅撰集だけでも40余集あるという。峠の道沿いに代表的な歌や句の碑が建てられている。

川向 本陣跡 常夜灯 急な坂 夜泣き石跡碑 涼み松 芭蕉句碑 命なりわづかの笠の下涼み 白山神社 鐘塚 下り 川坂屋 成瀬大城碑 ことのまま 事任八幡宮 祭神息長足姫命(神功皇后)、菅田別尊、玉依毘売姫 枕草子にも名前が記され”おもいのままに願ひ事が叶う”神社として信仰されている。境内の大杉は坂上田村麻呂が植えたときとされ県天然記念物。この神の姫を龍神が竜宮に迎えようとしたが父親神が拒絶。龍神は塩井川(逆川)に潮を導き雌雄の鯨を招き寄せ姫を奪わんとした、折りしも父親神は基に打ち興じていた。咄嗟に基盤を鯨に投げつけると、鯨はたちまち雌鯨山、雄鯨山になったという。街道両側の山



JR掛川駅

天然寺

オランダ使節史ケイスベルト・ヘンミイの墓 寛政10年(1798)ヘンミイは11代將軍家斉に謁見し長崎に帰る途中、掛川宿問屋場役人林宅で病没。天然寺に葬られる。



たつお

龍尾神社 祭神素盞鳴尊、櫛稲田姫尊ほか 掛川城の鬼門を守る神社。古くは龍尾山牛頭天王社。延喜式の真草神社ともいわれる。家康が掛川城の今川氏真を攻略の時に陣を置いた所。一豊の崇敬は篤く、掛川で生まれた2代目土佐藩主山内忠義は神社の分身を土佐に勧請し掛川神社とした。その時に奉納した、“蘇鉄”と“土佐の石”が境内にある。

りゅうげ

龍華院 (天台宗) 明暦元年(1655)城主北条氏重が3代將軍家光供養のため霊廟を建立したといわれる。現在のものは文政5年(1822)城主太田資治が再建したものである。別名おたまや。(県文化) この地は今川氏親が明応一文亀(1494-1501)頃重臣朝比奈泰熙に築城させた古城の本曲輪跡。



事任八幡宮